

## 252. C-ペプチド RIA キットの検討と臨床 応用

聖マリアンナ医科大学 第3内科

星 賢二 佐々木康人 染谷 一彦

放射線部核医学

庄司 由美 榊 徳市

血中 C-ペプチド反応 (CPR) は膵  $\beta$  細胞の分泌機能を反映し、特にインスリン使用糖尿病患者の検索に有用とされている。われわれは C-ペプチド RIA キット (第 1 R I 研究所) による CPR 測定法を検討し、臨床応用を試みた。

〔対象と方法〕 50g OGTT を実施した患者 22 名に同時に CPR を測定した。GTT 正常型 5 (Group<sup>1</sup>)、糖尿病型 14 (Group<sup>2</sup>)、境界型 3 (Group<sup>3</sup>) で、Group 2 のうち 4 例は肝障害を有する患者 (Group<sup>2-L</sup>) であった。この他にインスリン治療中の 2 症例に血糖日内変動と共に CPR を測定した。全例で、IRI をダイナボット R I 研究所製キットで測定した。CPR RIA キットは合成ヒト連結ペプチドに対する家兎抗血清を用い、B と F の分離は 2 抗体法である。

〔結果〕 標準曲線は、 $B_0/T$  32.6—38.6、平均 34.9% で、感度、再現性共に良好。within assay error は測定値 3.70—5.09ng/ml の範囲で変動係数 4.0—13.0 ( $\bar{m}$  7.2)% であった。標準 C-ペプチド添加時の回収率は 118%。インスリンとの交叉反応をみとめない。

Group<sup>1</sup> の空腹時 CPR は  $2.33 \pm 1.06$  ng/ml で、頂値は平均 7.87、頂値時間は 30 分 2 例、60 分 1 例、90 分 2 例、であった。IRI 頂値と同時 2 例、30 分遅れたもの 3 例であった。Group<sup>2</sup> では空腹時 CPR  $2.34 \pm 1.25$ 、頂値は平均 4.59 と低く、頂値時間は 60 分 2 例、90 分 5 例、120 分 6 例、180 分 1 例で、IRI 頂値より遅いもの 5 例、同時 3 例、早いもの 2 例であった。Group<sup>2-L</sup> では IRI、CPR 共に、遅れた (120 分)、高い頂値 (9.42) を示した。Group<sup>3</sup> は 1、2 の中間型を示した。インスリン使用中に日内変動を検査した 2 例では IRI 値に比し、CPR は低い傾向にあり、真の内因性インスリンを反映していると考えられた。

〔結論〕 血中 CPR は IRI とほぼ平行した動きを示したが、頂値は遅れる傾向がみられた。インスリン使用者における有用性を検討する。